

令和5年度 東三国丘保育園の自己評価

評価：A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組まれているが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

○評価項目と取り組み状況

内 容		評価
I 保育の基本理念と実践に係る観点	子ども一人一人を受容し、理解を深めて子どもの状態に応じた働きかけや援助を行っている	A
	一人一人の子どもの健康の保持、増進のため、保護者と協力を得ながら、生活リズムや食習慣等を把握し、発育発達に適した生活が送れるようにしている	A
	アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている	A
	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境を整備している	A
	乳児保育のための適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	A
	子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような援助や環境を整備している	A
	子どもが主体的に活動し、友達や様々な人間関係との協同的な体験をしたり様々な環境と関わったりできる人的・物的環境を整備している	A
	子どもが言葉豊かな言語環境に触れ、様々な表現活動が自由に体験できるような環境を整備している	A
	小学生との交流を通して、5歳児が就学へ期待と見通しが持てるようにしている	B
	<p>取り組みと課題</p> <p>日々保育を行う中で定期的に振り返りを行い、子どもに対して応答的丁寧な関わりができていないか?環境などは発達に合っているか?職員間で意見を出しあい、共通理解をしたうえで保育環境を整えることができた。</p> <p>昨年度に比べると小学校との交流は増えてきている。その中で年長児は就学向けての見通しを持ち、期待感を抱く姿が見られた。</p>	

内 容		評価
II 子育て支援に係る観点 家庭及び地域社会との連携や	保育の開始・変更時は家庭の実態や保護者のニーズ・意向等を把握するようにしている	A
	送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換の場や個人懇談などの機会や、子どもの発達や育児などについて保護者と共通の理解を得るようにしたり、育児相談に応じるなどしている	A
	子どもの食生活を充実させるために、保護者が試食できる機会を設けたり、レシピを知らせるなどして家庭と連携している	c
	子どもと地域との交流を広げるための取り組みを行っている	B
	園児指導要録の提出や意見交換を通して、小学校との連携を図っている	A
	園庭開放、一時預かり保育、育児相談、乳児家庭全戸訪問、子育てサークル支援等、地域のニーズに基づく公益的な事業・活動を行っている	A
	実習生やボランティアの受け入れ等、福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について積極的な取り組みをしている	A
	<p>取り組みと課題</p> <p>園庭開放などでは多くの方に参加していただき、地域の方と関わる機会を持つことができた。今後は園児との交流ができれば設けるなど、園庭開放を充実させていきたい。</p> <p>試食会は今年度も開催できなかったが、次年度より開催するので保護者の方に園での昼食の様子などを見て頂ける機会にしていきたい。</p>	

内 容		評価
Ⅲ 保育の実施運営・体制全般に係る観点	説明、配布物、掲示、ホームページ等で理念や基本方針の周知に努めている	A
	社会状況や子どもの実態、地域性等を考慮し、必要に応じて事業内容の検討や見直しを職員が参画して行っている	A
	子どもに関する記録の管理については個人情報保護規程を定め、適切に管理している	A
	苦情解決の体制について掲示物や配布物で保護者に伝えている また保護者等が苦情や意見を申し出やすいように意見箱を設置したり、アンケートを実施するなど努めている	A
	運営の透明性を確保するために財務状況、事業計画・報告、苦情解決の報告等、情報の公開を行っている	A
	事故発生防止委員会を設置し、安全確保や事故防止策・再発防止策について職員間で検討・実施する等の取り組みを行っている	A
	感染症対応マニュアル等を作成し、感染症の予防策を適切に講じるとともに感染症の発生時は保護者への周知に努め、適切に対応している	B
	災害時の体制（職員体制、備蓄、避難先・方法・ルートの確認等）を整備し、取り組みを行っている	B
	全職員がSIDS（突然死症候群）に関する必要な知識を理解し、乳児を寝かせる場合は仰向けにし、呼吸や健康状態を定期的に確認している	A
	職員が免許の取得や更新ができる機会が確保されている	A
	園内研修や園外研修、自己研鑽等により職員の保育の質の向上に向けて取り組みをしている	A
<p>取り組みと課題</p> <p>SNSなどを通して園の理念や基本方針などを周知することができた。今後もSNSなどを活用しながら周知していきたい。</p> <p>園外・園内研修は積極的に取り入れている。職員が研修で学んできたことを園内で発表する機会なども設けている。今後も保育の質の向上に向けて取り組んでいきたい。</p>		

令和4年度 東三国丘保育園の自己評価

評価：A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組まれているが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

○評価項目と取り組み状況

内 容		評価
I 保育の基本理念と実践に係る観点	子ども一人一人を受容し、理解を深めて子どもの状態に応じた働きかけや援助を行っている	A
	一人一人の子どもの健康の保持、増進のため、保護者と協力を得ながら、生活リズムや食習慣等を把握し、発育発達に適した生活が送れるようにしている	A
	アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている	A
	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境を整備している	A
	乳児保育のための適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	A
	子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような援助や環境を整備している	A
	子どもが主体的に活動し、友達や様々な人間関係との協同的な体験をしたり様々な環境と関わったりできる人的・物的環境を整備している	A
	子どもが言葉豊かな言語環境に触れ、様々な表現活動が自由に体験できるような環境を整備している	A
	小学生との交流を通して、5歳児が就学へ期待と見通しが持てるようにしている	B
	取り組みと課題 日頃の保育の振り返りだけではなく、公開保育や園内研修を活かすことで、子ども理解や保育についての考え方を深めることができ保育の質を高める機会ができた。 コロナ禍により、小学校と直接、交流することはできなかったが小学生が作成した紙芝居（小学校のルールや授業内容など）を通して就学へ期待と見通しを持つことができた。	

内 容		評価
II 子育て支援に係る観点 家庭及び地域社会との連携や	保育の開始・変更時は家庭の実態や保護者のニーズ・意向等を把握するようにしている	A
	送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換の場や個人懇談などの機会、子どもの発達や育児などについて保護者と共通の理解を得るようにしたり、育児相談に応じるなどしている	A
	子どもの食生活を充実させるために、保護者が試食できる機会を設けたり、レシピを知らせるなどして家庭と連携している	D
	子どもと地域との交流を広げるための取り組みを行っている	C
	園児指導要録の提出や意見交換を通して、小学校との連携を図っている	A
	園庭開放、一時預かり保育、育児相談、乳児家庭全戸訪問、子育てサークル支援等、地域のニーズに基づく公益的な事業・活動を行っている	A
	実習生やボランティアの受け入れ等、福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について積極的な取り組みをしている	A
	取り組みと課題 職員は日頃から保護者とのやりとりや会話の中から困りごとや悩みなどに気づいて声をかけ、打ち明けやすい雰囲気を作りながら保護者の安心感に繋がるように努めている。コロナ禍の中でも、園庭開放や一時預かり保育は積極的に受け入れたことにより、地域に開かれた場として応えることができた。一方で地域と子どもとの関わりを持つ機会が少なく、来年度に向けて取り組みを再開できるように小学校や地域と連携を図っている。	

内 容		評価
Ⅲ 保育の実施運営・体制全般に係る観点	説明、配布物、掲示、ホームページ等で理念や基本方針の周知に努めている	A
	社会状況や子どもの実態、地域性等を考慮し、必要に応じて事業内容の検討や見直しを職員が参画して行っている	A
	子どもに関する記録の管理については個人情報保護規程を定め、適切に管理している	A
	苦情解決の体制について掲示物や配布物で保護者に伝えている また保護者等が苦情や意見を申し出やすいように意見箱を設置したり、アンケートを実施するなど努めている	A
	運営の透明性を確保するために財務状況、事業計画・報告、苦情解決の報告等、情報の公開を行っている	A
	事故発生防止委員会を設置し、安全確保や事故防止策・再発防止策について職員間で検討・実施する等の取り組みを行っている	A
	感染症対応マニュアル等を作成し、感染症の予防策を適切に講じるとともに感染症の発生時は保護者への周知に努め、適切に対応している	B
	災害時の体制（職員体制、備蓄、避難先・方法・ルートの確認等）を整備し、取り組みを行っている	B
	全職員がSIDS（突然死症候群）に関する必要な知識を理解し、乳児を寝かせる場合は仰向けにし、呼吸や健康状態を定期的に確認している	A
	職員が免許の取得や更新ができる機会が確保されている	A
	園内研修や園外研修、自己研鑽等により職員の保育の質の向上に向けて取り組みをしている	A
	<p>取り組みと課題</p> <p>事業計画の振り返りを期ごとに職員と見直す機会を通して、保育の運営内容についても刷り合わせながら共通理解を図ることができた。また、園内研修や園外研修には意欲的に取り組むことで、改善が必要な内容があればすぐに検討し、保育に反映できるようにしている。</p> <p>災害時について常時検討はしているが今後、業務継続計画（BCP）について策定していく予定である。</p>	